

健全育成のための家庭・地域・関係機関との連携 ～オリパラ教育を通して～

千葉県いすみ市立太東小学校 鈴木 克則

I 現状と課題

1 現状認識

本校は、千葉県夷隅地域の北に位置し、学区の東側には太東海岸が広がり、別荘地が多く集まっている。そのすぐ隣は、2020年東京オリンピックのサーフィン会場となる釣ヶ崎海岸がある。

そのため、学区にはサーフィン関係で移住してきた方が多く、人々の気質が多様化してきている。このような地域の特性から、家庭や地域との連携の更なる推進が求められている。

2 課題分析・アプローチの視点

これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有することが求められている。そのため、地域の人的・物的資源の活用など社会との連携及び協働によりその実現を図っていくことが重要である。

本校で実施した学校評価では、「学校は地域の人たちの協力を得ている。」という項目について90%の達成度評価を受けている反面、「太東という土地柄を生かした教育活動を増やして欲しい」という意見が寄せられている。

さらに信頼を高め、よりよい学校教育を進めていくためには、さまざまな地域の特性を生かした特色ある教育活動を実践していくことが重要であると考えます。

II 研究の概要

1 サーフィン体験の目的

本校は平成29年度、30年度と千葉県教育委員会から「オリンピック・パラリンピック教育推進校」の指定を受けている。そして、2020年東京オリンピックのサーフィン会場である釣ヶ崎海岸に近い地域であるとともにサーフィンを行っている児童や保護者が多数いる。そこで、地元海岸でのサーフィン体験を通して、児童の健全育成及び保護者や地域との連携を深めることができると考えた。

2 関係団体との連携

いすみ市サーフィン業組合は、サーフィンの振興といすみ市の海浜地域の振興・発展を図ることを目的として活動している団体である。この組合員の方と、具体的な体験内容や事前準備などについて相談し、計画を進めた。

また、サーフィン体験を充実した内容で、しかも安全面に十分配慮した計画にするため、海上保安署、漁業協同組合、広域消防署、いすみ市観光商工課、いすみ市教育委員会、いすみ市体育協会サーフィン部、ライフセーバーなどの関係団体とも連携して取り組んだ。

3 当日の活動

いすみ市サーフィン業組合の方々といすみ市体育協会サ

ーフィン部の方々がインストラクターを務め、ウェットスーツ姿の子どもたちが、砂浜でボード上でのこぎ方や立ち方、姿勢などの説明を受けた。その後、海に入りサーフボード上で腹ばいになって漕ぐ姿勢（パドリング）からライディング（ボード上に立つ）に挑戦した。初挑戦にもかかわらず、次々にライディングを成功させる子どもたちに、海岸で見ていた保護者や関係者は、笑顔と歓声でいっぱいになった。子どもたちからは、「楽しかった」、「またやってみよう」という声が次々と挙がり、サーフィンの魅力を全身で味わうことができたすばらしい体験となった。

III 成果と課題

1 成果

子どもたちの「生きる力」を育成するために、学校・家庭・地域が一体となって地域の子どもは地域みんなで育てるという考えのもと、地域や学校の様々な活動を支援している人たちの力を結集し、地域の力を生かした教育活動の推進を図ることができた。

また、家庭・地域・関係機関との連携が深まり、多くの方々とのコミュニケーションが図られるようになり、学校への信頼も高まりつつある。

さらに、今まで行っていなかった新しい取組にチャレンジしたことにより、今まで関わりの薄かった関係団体や保護者の方々と新たな交流が生まれ、学校運営の活性化につながった。

2 課題

家庭・地域・関係機関と連携した取組は、大変有意義であり、教育効果も大きい。しかし、その準備や連絡・調整に費やす労力も少なくない。準備や地域の方々との調整の多くは、放課後の活動となってしまふ。学校で大きな課題となっている働き方改革・多忙解消にどのように対応していったらよいかは課題である。今後、経営資源の洗い出しと整理を行い、さらなる有効活用を図っていきたい。

IV 提言

1 家庭・地域・関係機関に協力を得て豊かな体験や多様な学習活動を行っていくことは学校教育にとって大変有意義なことである。

2 管理職が地域の多くの方々声を聞きながら、家庭・地域・関係機関との良好な関係を築くことが地域ぐるみで学校教育を支援する体制づくりを進める鍵となる。

3 学校・家庭・地域連携を推進していくために、互いに「やってあげた」、「手伝ってあげた」という関係ではなく、連携及び協働により教育活動の充実を図っていく、「社会に開かれた教育課程」の実現が重要である。